

令和4年度第1回我孫子市農業拠点施設指定管理者選考委員会議事録

1. 会議の名称

令和4年度第1回我孫子市農業拠点施設指定管理者選考委員会

2. 開催日時

令和4年6月23日（木） 10:00～11:30

3. 開催場所

我孫子市手賀沼親水広場 水の館3階研修室

4. 出席者

【選考委員】

上村文明委員長、新保美恵子副委員長、檜崎容子委員、嶺岸勝志委員
工藤文委員、小澤俊輔委員

【指定管理者 株式会社あびべじ】

大炊三枝子代表取締役、鈴木康仁取締役

【事務局（農政課）】

秋田芳博課長、斎藤寿義課長補佐、景山雄一郎係長、西田集主任

5. 議題

令和3年度の実績報告・評価について

6. 公開・非公開の別

公開

7. 傍聴人及び発言者の数

0名

8. 会議概要

令和3年度の指定管理業務に対する選考委員会によるモニタリングとして、株式会社あびベジからの事業報告に対して、選考委員からヒアリングを行った。ヒアリングの詳細は以下のとおり。

令和3度の事業報告・評価

(選考委員から株式会社あびベジへのヒアリング)

委員長) ご説明ありがとうございました。ただ今の令和3年度の事業報告に対して、委員から指定管理者に質問はありますか。

A 委員) 先ほどの指定管理者へのヒアリングから、収支が安定してきたことがわかり安心しました。食育について、市内小学生の生産者見学の具体的な内容を教えてください。

あびベジ) 新木小学校からのトマト栽培の現場を確認したいという要望があり、あびベジ出荷農家への見学会を実施しました。児童たちが、学校で実際にトマト栽培を行っており、栽培の注意点や苦労話を農家から聞いたことで、大変好評でした。

B 委員) 加工部門の収支について伺います。収入は上がっているが、支出がそれ以上に増加しています。その原因について教えてください。

あびベジ) 物価上昇と人件費の増加により、支出が増加したことが要因です。

C 委員) 利益率が増加していることは良いことだと思います。以前は、役員がスタッフと共に加工の作業現場にいましたが、経営見直しにより役員が抜け、スタッフが増加したことによる人件費の増加ということであり、加工部門の数字は良くなっている状態と認識しています。

D 委員) 市民が地元の農業にふれあう場所が少なく、新型コロナウイルスの影響後、以前に増して自然とふれあう機会も少なくなっています。農業拠点施設として、体験農園など新しい事業を行っておりますが、今後も新たな手法を試していたいただければと思います。

E 委員) 令和3年度の実績を確認でき、消費者としては見えない取り組みも理解できました。スタッフの対応も良く、学校との食育の取組についても素晴らしいと思います。野菜販売だけでなく、様々な団体との繋がりを築きながら活動されていますが、その中のフードコーディネーターとの連携について、具体的な取組を教えてください。

あびベジ) 令和3年度はインスタグラムの開始に伴い、フードコーディネーターのアドバイスを受けながら、運用を開始しました。令和4年度に入り、収穫体験に合わせて、料理体験講座の開催も実施しており、今後も連携を継続していく予定

です。

F 委員) 加工部門の収支状況について、他の委員からも指摘を受けておりますが、人件費が高騰していく中で、今後下がることは考えにくいので、改善策を検討していただければと思います。一方で、飲食部門についてですが、利益率がこれまでの実績と比べ高くなっており、原価率を抑えられた結果だと思っております。適正仕込み量の目安表や仕込み量のチェック表などの取り組みをはじめたのですが、この結果が原価率を下げられた理由なのか、それとも別の理由があるかを教えてください。

あびベジ) 当初運営を始めた際は、仕込みや材料の仕入れについて適正さの度合いをつかみ切れませんでした。経験を積むにつれて、店の規模に見合った仕込みや仕入れを少しずつできるようになり、現場のスタッフと共に意見交換をしながら、改善していくことができ始めたことが、結果として原価率の改善に繋がった理由だと考えています。

F 委員) 経営陣と現場スタッフのベクトルが同じ方向を向き、経営改善に繋がっていることは非常に良いことだと思います。今後も継続して行ってください。

C 委員) 苦情対応について伺います。具体的にどのような苦情があり、どのような対応を行ったかご説明ください。

あびベジ) 生鮮品を扱っているため、傷みや変色などの多少の苦情はありますが、その都度返金や商品交換等の対応を行っています。また、飲食部門では、外席を設置しているのですが、散歩や広場に訪れる方が利用してしまいレストランの利用客が座れないことがあります。その際は、スタッフがお互い気持ちよく施設を利用できるように説明し、丁寧に対応しています。

C 委員) 苦情処理の対応次第では、お客様が離れて行ってしまうので、今後も丁寧に行っていただければと思います。次に、体験農園事業について伺います。今年度から開始した事業ですが、具体的にご説明ください。

あびベジ) 会社として農地を借り、収穫体験だけでなく、植え付け体験などの農業者が企画している利点を生かした農業体験ができる取り組みとなっています。令和3年度は4回行い、親子を中心に毎回20名程度参加していただきました。今後は、年間6回程度のイベントを開催予定です。

C 委員) 農業拠点施設として他の直売所とは違う特徴を活かしていると思います。市民と共にやる農業交流体験や食育など、地元の農業を知ってもらう地産地消の取り組みは今後も大事にしていきたいです。

B 委員) 我孫子市立第一小学校の特別支援学級による野菜販売について、詳しく教えてください。

あびベジ) 第一小学校の校内で野菜を栽培しており、あびベジが栽培指導を行った経緯があったことから、児童に販売体験の機会を与えたいと学校側から提案があり、水の館1階での販売会を実施しました。当日は、児童が自分たちで育てた野菜

を直接お客さんに販売しました。

C 委員) 赤字からスタートした経営も、現在では改善を図り、黒字化にできています。今年度が指定期間の最終年度となりますが、令和3年度の実績から今後の運営についての自信や展望はどのようにお持ちでしょうか。

あびベジ) 令和3年度は黒字化となりましたが、物価高騰や人件費の増加などの要因もあり、まだまだ収支が安定してはいないため、経営努力を継続していくとともに、農業者の出荷があってこそその農業拠点施設なので、出荷登録をしていない農業者に出荷してもらえるように、声掛けをしていければと思います。

C 委員) 出荷事業者について、地元農産物は全て我孫子市の農業者による出荷ですが、その他商品の市内事業者の割合が半数を切っているため、地産地消のために市内事業者への働きかけを行っているのでしょうか。

あびベジ) 開業当初に市内商業者に声掛けを行いました。市外事業者からの出荷希望も多く、半数を切っている状態です。今後は、市内事業者に対して積極的な働きかけを行っていきます。

E 委員) お客様アンケートの対応について伺います。より安全・安心や新鮮さを求める声が上がっていますが、アンケートに対してどのような対応を行っているか教えてください。

あびベジ) お客様アンケートに対しては、店内に回答を掲示しています。今後も継続していきます。

F 委員) 販売促進費について伺います。収支も改善しており、販売促進は積極的に行っていたと思いますが、令和3年度の販売促進費が前年度に比べ増加した具体的な理由を教えてください。

あびベジ) 理由としては、出荷農家への奨励金を支出したことによる増加です。販売金額に応じて2%を返金し、日々出荷している農家に対しての還元を行いました。

委員長) 他に質問はありますか。

全委員) ありません。

委員長) それでは、以上でヒアリングを終了したいと思います。あびベジの皆様ありがとうございました。

(株式会社あびベジ退席)

委員長) それでは、各委員からの寸評をお願いします。

D 委員) 指定管理者からの報告及び質疑に対する回答はわかりやすいものでした。今後も経営努力を継続していただき、より多くの市民が活用できる施設となることを望みます。

F 委員) 現場スタッフの意見を汲み取り、経営改善を図ることができたことは、経営陣の成長があったからこそその行動であると思います。また、道の駅しょうなんのリニューアルの影響がどのように出るかを懸念していましたが、現時点では売

上等の数字を見る限り前年同様であることから、お客様からの支持をいただいております。今までの指定管理の経験から導いた成果であると思います。今後も農業拠点施設としての魅力的なものとするためにも、農業体験や食育などの事業を強化していただきたいと思います。

A 委員) 数字が安定したことが何よりの良い報告でした。専門家の意見を活かして、経営陣が現場と共に改善してきたことが成果として実を結んだものであると思います。指定管理者には黒字化となり安心するだけでなく、より経営面での努力を継続していくとともに、農業拠点施設としての機能を発揮していただけるように食育等の事業にも力を注いでいただきたいと思います。

C 委員) 事務局に伺います。農業者であると非課税事業者が多くなると思われませんが、指定管理者のインボイス制度への対応状況は把握していれば教えてください。

事務局) 指定管理者に確認したところ、担当の税理士に相談をしており、対応に向けて準備を進めており、準備ができ次第、農業者にも説明していく予定とのことでした。

C 委員) 課税事業者・非課税事業者への対応をしっかりと行い、指定管理者として農業者に丁寧に対応していき、結果として道の駅しょうなん等の他店との差別化にも繋げていくことが大切であると思います。そして、農業拠点施設としての特徴を積極的に強化していただきたいと思います。

B 委員) お客様アンケートの結果から、様々な農業者の農産物が並んでおり、選び方が難しいとの意見がありました。実際に店頭を見ると枝豆など複数の品種のものが出荷されているため、わかりやすいPOPなどで手に取りやすくなるような工夫がされるとよりお客様の満足度が向上すると思います。また、アンケートに対してどの様な回答をするのかをお客様は非常に気にされているので、回答についてはしっかりとお店の目立つところに掲載していただきたいと思います。また、スタッフ教育の面ですが、普段買い物に行く際に感じる場所として、レジの方の対応は丁寧で、商品についての質問も迅速に対応してもらっており、良い印象です。さらに、レストランのアンケートを見ても、お客様目線でサービスを提供していることで高評価をいただいているため、引き続きスタッフ教育を継続していただきたいと思います。

E 委員) この直売所の良いところは、新鮮な農産物、エコ農産物が豊富であるという点だと思っています。引き続き、環境保全型農業の推進に期待しています。

(事務局から評価の集計結果を発表)

委員長) 集計結果について説明がございました。質問がある方はいらっしゃいますか。

D 委員) 今回全て B 評価となりましたが、5段階評価で、3点以上4点未満が中間の B 評価となるため、3.9となった「農産物販売」の項目については、Aに近い

ものと認識しました。

C 委員) 市の評価が厳しいなと感じますがいかがですか。

事務局) 5段階評価の3点は評価の視点を満たしているという基準になっています。

そのため、3点は低いということではなく、今後の更なる運営に期待する上でも、計画書に記載された内容以上の優れた成果が出たときに更に高い数字が出せるものだと思っています。

委員長) 異議がある方いらっしゃいますか。

全委員) ありません。

委員長) それでは、最後に総評を申し上げます。

市の評価の説明も理解でき、経営状況が良くなってきていますが、3点が当たり前で、4点以上を狙うためには、更に緊張感をもった対応を指定管理者に望むということで、今後も気を引き締めて運営していただき、現在の指定期間における最終年度となる令和4年度も更なる結果を出し、農業拠点施設の活性化を図っていただければと思います。

委員長) 最後に事務局から事務連絡をお願いします。

(今後の選考委員会のスケジュールなどの事務連絡)

委員長) それでは、よろしいでしょうか。令和4年第1回農業拠点施設指定管理者選考委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上